

研究・調査報告書

報告書番号	担当
42	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The social consequences of binge drinking: a comparison of young adults in six European countries. 問題飲酒の社会的転帰： ヨーロッパ 6 ヶ国における若年成人の比較	
執筆者	
Plant MA, Plant ML, Miller P, Gmel G, Kuntsche S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Addict Dis. 2009 Oct;28(4):294-308. PMID: 20155600	
キーワード	
問題飲酒、社会的転帰、若年成人、ヨーロッパ	
要 旨	
目的： 2000-2005 年にヨーロッパ 6 ヶ国で行われた一般人口集団での調査を利用して、若年成人の問題飲酒と社会的転帰について比較した。	
方法： 研究は Gender, Alcohol and Culture: An International Study (GENACIS)の主催で行われた。チェコ、デンマーク、マン島、スペイン、スウェーデン、イギリスの 18-23 歳成人 1,446 人、24-32 歳成人 2,482 人が、飲酒習慣および飲酒に直接関連した社会的転帰についての質問に答えた。調査方法は、スペイン、イギリスでは面接聞き取り、デンマーク、スウェーデンでは電話調査など色々である。回答率は 50-72%であった。「問題飲酒」あるいは「多量機会飲酒」は、男性では 1 回あたりの飲酒量が英国での 8 単位以上、女性では 6 単位以上とした。転帰としては、人間関係、健康、金銭的問題発生、減酒の指示、けんかに巻き込まれることとした。	
結果： デンマークとスウェーデンでは、24-32 歳群は、18-23 歳群より問題飲酒者が少なかった。そのほかの国ではほとんど差がなかった。年齢階級によるさもほとんどなかったが、国による飲酒率には差があった。イギリス、スウェーデン、チェコ、デンマークは少なくとも一つの転帰の発生が、スペイン、マン島より多かった。けんかはイギリスで多かった。減酒の指示はスペインとスウェーデンでは少なかった。	
結論： 国によって飲酒文化に多様性があった。	